

臨工連盟新聞

2017年
(平成29年)
夏季号

議連創設に向けて！



臨床工学技士は必要とされていますか？

日頃より、日本臨床工学技士連盟にご協力いただきありがとうございます。本日はあえて、厳しいことを提言したいと思えます。

皆様は臨床工学技士の未来を予測していますか？

現在、厚生労働省は「惑星直列」と名を冠つて「診療報酬・介護報酬の同時改定」、「医療計画・介護保険事業（支援）計画のスタート」、「国民健康保険の都道府県化」もスタートして、誰も経験しない超医療改革が進行しています。これまで、右肩上がりだった政策を転換し、必要度が高い所に予算を集中させ以前のような均一に資金を配分する政策からは脱却してゆきます。

このことをイメージできていますでしょうか？当然我々の業務も含まれます。

そこで、考えていただきたいのは、「臨床工学技士は日本国民に必要とされていますか？」

皆様は自信をもって「必要をされている」と根拠をもって胸を張れますか？「夜郎自大」になってませんか？

日本の人口は低下傾向で超高齢化に向いさらには加速する状況です。待たなれしといった方がいいでしょう。当然人口減少により社会保障を支える人口が減り、税収入がすくなくなつてゆくと、日本の歳出をみても医療費のみが上昇傾向です。そこで、政府は医療の抑制にむかっています。その大きな流れが先に述べた「惑星直列」です。

そこで、臨床工学技士が担うべき「事業」はなんしょう？人工呼吸器、透析、体外循環をはじめとする生命維持管理装置の操作および保守点検でしょうか、医療機器中央管理によるME機器の管理だけでしょうか？我々は医療機器を通して人と接していますか、今の仕事がイメージできる全てでしょうか？

今の世界は「IPS細胞」をはじめとする再生医療や、記憶・判断データ収集を得意とする

「AI」が発達し10年後に今と同じ仕事をしていく保証がありません。医療そのものが別の方向性に向かっている可能性があります。生き残る事ができるのは「強い者、頭の良い者ではなく、変化できるもの」とダーウィンが言われている通りです。そもそも、臨床工学技士の誕生も「環境の変化によって種が生まれてきた」とも言い換えられるでしょう。それならば、臨床工学技士が今後時代の変化に対応できる国家資格でなければなりません。我々を誕生させたのは、時代のニーズだったからです。そのニーズに応え法律を改正し「臨床工学士法」が制定され、現在にいたります。ここで最も重要なことは、**良くも悪くも「我々は法律によって規定されている」ということです。業務範囲や許可されていること（やつて良いこと、出来ない事）です。**医療は医師以外行えませんが、医療補助業務はポーターレス化が進みつつあるとはいえ、「保健師助産師看護師法」の範囲内しかおこなえ

みんなでやればきっと変わる！
会員数6月末現在
1143名



ません。出来る事を増やすには法律を現状に沿うように変化させて行く必要があります。もちろん法律を「採択」できるのは日本では「国会議員」のみです。我々が国家資格として業務を行っている以上「法律と政治」を離れることはできません。むしろ味方にするべきです。

ぜひ、政府政策と臨床工学技士を連動して考えて行かないと我々臨床工学技士としての未来は、光無い世界かもしれませぬ。今からでも行動できることはあります。ぜひその一歩を自らの為に踏み出してください。

(副理事長 小林剛志)



日本臨床工学技士連盟（肥田泰幸理事長）日本臨床工学技士会（本間崇理理事長）は、6月16日衆院第1議員会館で、公明党厚生労働部会（部会長 榎屋敬悟衆院議員）に要請した【写真】。肥田理事長らは、医療機器の安全確保と有効性維持を担う臨床工学技士の現状について、医療・介護現場での役割が拡大する一方で、人材の育成・活用が進んでいないと指摘。国公立大学における臨床工学技士養成学科の新設や技術・手技を適正に評価した診療報酬改定などを求めた。榎屋部会長は「しっかりと検討する」との回答を得た。

(日臨工 萱島道徳)

厚生労働部会

新入会員 募集中！

新学期が始まると、新入会員を増やすチャンスです。活動が多岐にわたるにつれ、現状の運営資金での活動が困難となっています。会員の増加が活動を広め、我々の權益獲得に繋がります！

ボーナスが出たこの時期なら誘いやすいのでは・・・よろしく願いいたします。

詳しくは、Webページをご確認ください

新風を福岡からお届けします！

新たな風が吹くことを感じた。それは確実に目の前で起こった出来事である。福岡県博多区、第25回福岡県臨床工学会特別講演の演壇には、真っ白いジャケットを羽織った参議院議員「自見はなこ」先生のお姿があった。

一般社団法人福岡県臨床工学会では政治活動の重要性を痛感し、日本臨床工学会連盟設立より同調してきた経緯がある。学会長の熱望により、福岡県下事業では初の現職国会議員による講演となったのである。学会参加者は472名、うち127名が臨床工学会養成校の学生であった。特別講演中は他会場の演題はなく、そのほとんどが本会場にて拝聴したことになる。



会場内には目新しいスーツ姿で学会に参加した学生、各医療施設で職務に就く臨床工学会士、協賛にて訪れた医療機器関連企業、今からどんな話になるのか、そもそも政治家がどのような話をするのか興味がある顔の者も、つまらなそうにスマートフォンをいじる者も様々であった。

第一声は穏やかに始まった。自身の生い立ちから話が始まり、医師となり臨床工学会士と共に患者様をお助けする仕事に従事してきたこと。通常、政治家の講演会では壇上の真ん中におかれた演台より、第一声から熱の籠った演説だと思っていた。

しかし、自見先生の言葉には優しさと、寄り添うような物腰が印象的であった。会場内の雰囲気は少しずつ変わり始めた。我々、臨床工学会士の存在と仕事内容を、さらにはその重要性をも語ってくださる自見先生を聴衆は自然な成り行きで受容したのである。我々の社会的な意義

を前段で述べたにもかかわらず、なぜ認知度が向上せず厚遇を受けないのか。それは政治に對しての認識が低いからだと言えよう。ここでも自見先生は優しく語りかけるのである。日本国民としての権利、立法府としての役割、部会から委員会、各種陳情など政治に無関心である者には初めて聞く話ばかりであろう。

しかし「私の一日」として政治活動の話が進むと、すでに受容した聴衆はそのままその役割と重要性を認識し、以前は医療従事者であった自見先生に感銘を受けるのである。



そして最後に語られた言葉はこれまでにないほど熱く、聴衆には深く響いたに違いない。「皆様方にとって最も必要なことは團結することです。透析業務をされている方や人工呼吸器に携わる方も、手術で人工心肺を操作する方でも同じ臨床工学会士じゃないですか。」

この言葉を我々は真摯に受け入れなくてはならない。なぜなら、専門性が多岐に渡るが故に業務間での協同性や協調性に欠けるのではないだろうか。

「技士会に入るメリットって何ですか？」
「連盟に入ると何が良いのですか？」よく聞く問いかけである。自己の利得をつい口にしてしまう昨今、医療を守るため政治家へと転身された方の演説である。その必要性を説く講演に舟を漕ぐ者はおらず、膝に手を置き前のめりの学生、目を固く閉じ唇を真一文字に腕を組み何度もうなずく者、必死に何かを記すべくメモを取る者と同様々であるが、冒頭の雰囲気からは一変していた。会場から「今すぐにも我々が出る

ことは何でしょうか？」との問いかけに自見先生は政治に参加すること、選挙権を行使することを述べられた。私は講演後に数名の若手技士や学生を談話する時間があつた。彼らは次の選挙では投票行動をとると言っていた。今日、会場に来ていない友人に政治の必要性を教えたいと言った。もっともつと我々の事を理解する政治家が誕生してほしいと言った者もいた。

その時、風は吹いたのだ。
政治の事を知らなかったのは彼らが悪いわけではない。学校で習わなかっただけでもない。自分らの生活に政治が関わっていることを教えられなかったのだらう。その実感がなかっただけであろう。

これからも、明日の医療を支える臨床工学会士は日本臨床工学会士連盟とともに團結すべきではないのだろうか。福岡から更なる風を多くの者に感じてほしい筆を執った。
(一般社団法人福岡県臨床工学会 会長 小島英樹)

政経フォーラムに参加

はじめまして、私は長野県担当の丸山朋康と申します。
6月18日(日)に、**吉田博美参議院議員の地元長野県飯田市で政経フォーラムが開催され初参加してきました。**

連盟HPや掲示板で政治資金パーティーの存在は知っておりましたが、その多くが都市開催であり、遠い別世界の話と感じておりました。そんな私に政経フォーラム参加依頼が舞い込んできました。会場ですらおどろいたのは、出席者に国会議員、県議会議員、各市町村長がいたことと人の多さでした。

その雰囲気は圧倒され、初めから心が折れそうでした。
受付後、会場入口で吉田先生がお出迎えしていました。緊張のあまり、隣に大家先生がいることにも気づ

かずに「大家先生の紹介です。」と挨拶してしまう失態。その後、大家先生に改めてご挨拶し連盟であることを伝えると、初対面の私でも親切に対応していただき無事に役目を果たせました。

今回参加して、肥田理事長をはじめ連盟理事の皆様のご苦勞を感謝するとともに、改めて連盟活動の重要性を感じました。次回参加のチャンスがあれば、議員の方と写真撮影をしてきたいと思っております。最後に、肥田理事長はじめ関係者の皆様このような機会をいただき、本当にありがとうございました。



理事長コラム

加計学園問題に思う臨床工学技士の需給予測

不誠実、隠ぺい、権力の横行と反応する人も居れば、政権批判の材料として過剰に煽っているだけとシラケている人も居ます。価値観の違いをうまく整えるのは民主主義政治にとって、最大の難関課題といふべきでしょう。この話題に踏み込むのは炎上誘発などのリスクを伴いますので差し控えますが、この問題を臨床工学技士に置き換えて考えてみたいと思います。

獣医師は52年間に渡って養成校を増やして来ませんでした。「既得権益」がキーワードとなつていますが、なぜ既得権益となるのか？増やし過ぎると過当競争が激化した結果収入減につながるからと、一部の報道では語られています。これは、人獣共通感染症の防止に務めるいわゆる公務員獣医師ではなく、小動物を扱うペットショップなどを対象とした発想だと思われまます。ここで忘れてはならないのは、ペットショップ

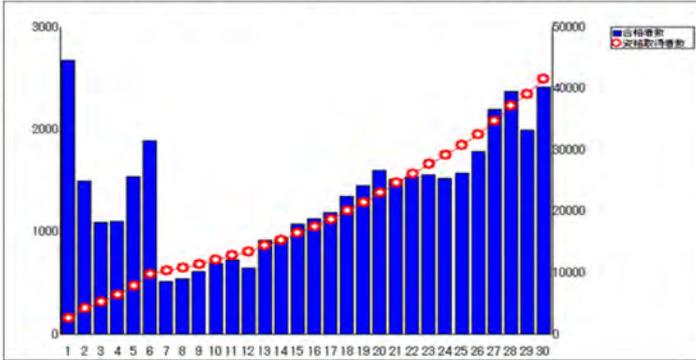
は「自由診療」であることです。自由診療であるからこそ過当競争が発生し、品質の向上や価格の低下など、消費者としては恩恵を受ける結果となります。

「会員の職業と生活を守る」ことが職能団体の目的である以上、獣医師会はその責任をしっかりと果たしていると言えるのではないのでしょうか。

一方、臨床工学技士に関わる費用は自由診療ではありません。費用の大部分は政府の負担、即ち国民から徴収した税金から支払われています。親方日の丸だから安心、などと云ってはいただけません。当然のことですが政府の歳出は限りがあり、その中で様々な問題解決と要望に応える必要があります。いわゆるバネの奪い合いなのです。臨床工学技士の診療報酬が僅かしか与えて頂けていない現状は、評価が与えられていないことに他なりません。命仕事をしているのに

対価として評価されていないのです。本題はその事ではなく、需要と供給のバランスについてです。臨床工学技士免許の取得者数は平成28年末で4万人余り、養成校は現在79校あり、圧倒的に血液浄化関連で業務を行う臨床工学技士ですが、今後透析患者さんは減少に転じることが明らかで、状況であり、このまま資格取得者が増え続けて需給バランスは整うのでしょうか。

今後、臨床工学技士供給体制を継続して拡大するには、それに見合った需要の拡大を図る以外手はありません。医師や看護師不足を補う手術室や集中治療室、在宅医療などへ展開を図るべきと考えますが、まずはそれに合った“質”を確保することが必要です。現在はまさに大きな転換期の入口と考えられ、早急に質の向上を整備すべきと考えます。質の向上と共にすべきことがあります。それは臨床工学技士の需要と供給の実態と将来予測です。供給体制についてはある程度整っています。需要については明示できるものが存在しません。先に述べた展開分野などを鑑み、将来の需給見通しを策定する必要があると、加計問題の本質とは異なる論点を感じた次第です。



「女性医療職エンパワメント推進議員連盟」 設立総会への出席報告

日時：平成29年1月27日（金）13:30～15:30 場所：参議院議員会館1F講堂
 参加者：高橋純子（日本臨床工学技士連盟）、吉村規子（日本臨床工学技士会）、大塚 紹（福岡県臨床工学技士会理事）

1. 本議連の設置趣旨

わが国は、教育水準の高さに比して、医療福祉分野以外での女性の社会経済活動が、未だ十分な段階に達していない。生涯に渡る就業モデルとなり得る、女性医療職への効果的なエンパワメント推進を主なテーマとし、人生各期で大きく変化する女性特有の心身社会的健康問題にも着目した制度整備を行うため設置された。

2. 本議連の構成

会長：野田聖子（自）
 会長代行：山本香苗（公）、福島みずほ（社）
 幹事長：高階恵美子（自） 幹事：小淵優子（自）ほか17名
 事務局長：自見はなこ（自）（敬称略）

3. 日本臨床工学技士会および連盟の今後の課題

当会是一般団体席への着席となった。事前に発言する団体の選定もされていたようで、資料も十分に備えられていた。当会にも声がかかるように「女性就労と健康の実態」を調査し、十分なデータを集約・発表できるよう備える必要があると感じた。



今回、ご縁のあった議員、特に福島みずほ氏は丁寧に話を聞いてくださり、臨床工学技士の就労状況や様々な要望を聞いてくださる雰囲気であった。連盟でも女性の就労を考える組織を作り、要望を陳情することが必要だと感じた。